

事業名称	第1回ストリートダンス&バンドマンコラボレーション —第4回姫音祭（姫路ミュージック&ダンスフェス）—
団体名・代表者	ひめじあかり実行委員会 代表 岡田 兼明
協働の相手方	文化国際課

目的	世界的にも注目が集まるダンス分野で、日本に先駆けてインターネットの世界での配信力を強化する。そのことで、姫路エリアでのダンス人気を活性化し、子どもを中心とした発表の場を増やす。同時に開催される音楽イベントに出演するバンドマンと連携することで可能となり、相互にまちのにぎわいづくりに貢献することができる。姫音祭では、普段は市民があまり利用していないような、姫路の街中の色々なステージで、音楽やダンスが発表できる機会を作る。合わせて、市民が音楽を聴き、ダンスを観る機会にもする。そのことで、姫路市でも「いつかは音楽の日が制定できるぐらい！！」に、多くの市民や来姫者を巻き込み、姫路のまちを盛り上げ、楽しみ、そして出演者を応援する。	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・大手前公園に城とバンドマンをバックにしたステージを設営する。オペラさながら、生演奏でストリートダンスを披露する。 ※姫音祭などでは、他に JR 姫路駅北交流広場、城見台公園、あいめっせホール、イーグレ姫路などにステージを設置しライブ演奏を行う。ステージ以外にもディスプレイを設置し、他のステージの演奏をリアルタイムで視聴できるようにする。 ・ライブ映像の視聴回数と、審査員によるコンテストを行う。 ・他団体とも連携し、姫路城周辺の回遊性を高める。スタンプラリーを実施する。 ・行政との提案型協働事業とすることで継続性を高めるとともに、将来的には姫路市、姫路市文化国際交流財団などの年間予定に組み込まれるような事業としたい。 ・同日開催の他団体主催音楽イベントだけではなく、食のイベントなどともコラボレーションする。 ・雨天時には、イーグレ姫路のあいめっせホールでのイベントと協働する。 	
事業経過	6月上旬 第1回実行委員会 7月上旬 第2回実行委員会 8月上旬 第3回実行委員会 8月下旬 出演者募集開始 9月11日 第4回実行委員会 全体会議(オンライン) 10月上旬 第5回実行委員会	10月10日 出演者決定 11月上旬 第6回実行委員会 直前打ち合わせ 事業の理念、段取り共有、全体会議 11月28日 事業当日 11月29日 片付け 12月19日 次回に向けての事業振り返り 全体会議(実行委員会、関係者)
事業の効果	コロナ禍だったが、継続事業として来場者を迎えてのライブと、ケーブルテレビとも連携した配信事業との複合で安全に開催することができた。出演者・観客数とも昨年の第3回を上回る大盛況だった。ストリートダンスなどは様々な権利関係から、配信事業に難しさがあるが、特筆すべきとして、ケーブルテレビや生演奏と連携することで、好きな曲で踊ったパフォーマンスをオンライン配信することができた。また、ピアノ部門では、3年連続で人気ユーチューバー「よみい」の出演により、よみいチャンネルを始めとした、主催団体以外の SNS へも積極的に拡散され、全国へ姫音祭、また「音楽のまち・ひめじ」事業の認知度向上により寄与する結果となった。	
今後の展望	12月19日に行った反省会では各部署担当者から改善点・提案の提案も多く為され、実りの多いものとなった。この内容を踏まえ、次回開催にむけての確認事項として共有する。協賛・協力を頂いた各企業様への事業報告、また、実行委員会としての組織運営体制の見直しも、市民ボランティアが結集した団体としてはこまめに行っていくことが肝要である。	

【実施団体の事業総括・感想等】

<p>街をステージとすることで、音楽・ダンスの発表の機会を設け、更に多くの市民の目に触れやすくするという当初の目的は大いに達成されたと考えられる。事後の反響も想定を超える大きな手応えが、特にケーブルテレビでの放送を含めた、オンラインで強く感じられた。今後も、公共空間利用と街の回遊性を意識しながら、まちの賑わいづくりに寄与したい。</p> <p>しかし毎年の継続事業として捉えると行政との連携のみならず、市民主体の実行委員会としての継続的な組織運営体制の確立が急務である。ひいては観光政策との両輪で考えられるような将来的なビジョンの策定まで含めて、実行委員会でも担えるようになることが理想である。</p>
--

【協働の相手となった所管課の感想等】 ※実施団体は記入しないでください

<p>4回目を迎えた今回も音楽とダンスを中心とした多彩な催しを展開し、コロナ禍にあっても多くの観客を動員した点で、まちの賑わいづくりと地域の活性化につながったと考えます。特に、地元ケーブルテレビ局と連携した生中継や前回に引き続き YouTube でライブ配信を行ったことなどは、先進的な取り組みとして他の主催者にとっても大いに参考になるものでした。</p> <p>今後も継続的に実施することで認知度が高まり、恒例のイベントとしてさらに成長できると思いますので、組織面や資金面で持続可能な運営体制を確立し、「音楽のまち・ひめじ」プロジェクトの一翼を担う事業となることを期待しています。</p>
